



インスピレーションになるろう
RI会長 バリー ラシン



2018-2019年

Rotary District 2640 Japan
海南東ロータリークラブ
ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

会長 山畑 弥生 幹事 中村 俊之 SAA 田岡 郁敏

第 1991 回例会

平成 31 年 4 月 8 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F
会員卓話 「P E T S」報告
会長エレクト 寺下 卓君

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「我等の生業」

3. 出席報告

会員総数 42 名 出席者数 20 名
出席率 48.78 % 前回修正出席率 83.33 %

4. 会長スピーチ

会長 山畑 弥生 君

皆さん、こんにちは！今日は、桜が満開で暖かく気持ちがいいですね！昨日、観光で再開発がモーレッツな勢いで進む梅田貨物駅があった梅田北ヤード（通称梅北）に行ってきました。高層ビル群が建ち並び、そのビルの間からクレーンが幾つも首を出し、田舎に住む私は、まるでタイムマシンに乗って近未来へ来たような気持ちになりました。来年 2020 年開催のオリンピック、パラリンピック、そして 2025 年開催の大阪万博に向け、この二大都市は急ピッチで発展を遂げると思いますが、そんな中で、和歌山は時間がゆっくり流れる人々の心のオアシスとなるような観光誘致を目指して欲しいとつくづく思いました。



さて 4 月の重点分野は「母子の健康月間」です。

- ・5 歳未満の幼児と妊婦の死亡率と罹患率（発病率）の削減
- ・より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供
- ・保健従事者を対象とした研修と保健ケアの提供
- ・母子の健康に関連した仕事に従事することを目指す専門職業人のための奨学金の支援を強調する月間です。

具体的な活動は、母乳に関する母親への指導や予防接種と定期健診の推進、それから清潔な出産キットの配布や安全な環境での出産、そして適切な研修

を受けた医師、看護婦、助産師など医療従事者によるケアを、全ての女性が受けられるよう支援するなどの活動がなされています。尚、今月のガバナーマンスリーに檜畑ガバナーが、もっと詳しく書いて下さっています。また、当クラブのセブ島訪問やイーストコンペも掲載されていますので是非ご一読下さい。

話は元へ戻しますが、日本には、母子の健康を守る為、妊娠期から 6 歳になるまで予防接種や健康の記録をまとめた母子健康手帳があります。男の方も奥様が妊娠出産の折、この手帳を一度は目にしたことがあるかと思いますが、日本の母子健康手帳が誕生したのは、戦後のことで、戦時中は「妊婦手帳」が配布され、妊婦には、米や砂糖などを配給して貰うことが出来ました。その後、昭和 23 年に母子共に健康を守るようにと健康状態の記録が出来る「母子手帳」となり、昭和 39 年には、まだ発展途上だった日本が、医療先進国のアメリカの乳児死亡率を下回るまでになり、昭和 41 年に現在の「母子健康手帳」となりました。

医師が、この手帳を見れば母親の妊娠期や出産時の状態、子供の発育や健康状態を把握することができ、速やかに適切な処置や治療が出来る為、乳児死亡率低下に大きく貢献したと考えられています。そして、日本は、世界 1 乳児の死亡率が低い国となったことから世界中で絶賛され、母子健康手帳を参考にしたいとの声が相次ぎ、現在、発展途上国を中心に世界 30 カ国以上で活用され母子の健康を守っています。



では後程、会長エレクトの寺下さんに P E T S 報告をお願い致しまして終わります。

5. 幹事報告

幹事 中村 俊之 君

○例会臨時変更のお知らせ

高野山 RC 4 月 19 日(金) → 4 月 17 日(水)
蓮花院 (花見例会)

4 月は母子の健康月間です

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002

海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)

TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

母子の健康における成果

私たちは、地域社会が自力で母子の健康を守っていただけるよう研修と支援を行うことによって、持続可能な私たちで母子の健康を促進しています。

ロータリーによる活動の例

出産前ケアの移動クリニック

ハイチは、西半球で母子の死亡率が最も高い国。この国で、医療ボランティアと助産師が僻地に住む母と子どもに医療ケアを提供できるよう、医療機器を搭載したジープを寄贈しました。

可動式がん検診支援

インドにおける、可動式の癌検診機器一式の提供と、認識向上を目的とした研修の実施

産科ろう孔の治療

自宅出産を安全に行うため、ロータリー会員が300万ドルを投入して5年間の試験的プロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、2005年以来、産科ろう孔で苦しむ女性たちの尊厳と希望を取り戻すために、当初の目標を500人上回る1500人の治療を行ってきました。



「母親が強く、健康であれば、その家族も強く健康になり、貧困と飢餓も和らぎます」 Robert Zinser さん、人口と開発のロータリアン行動グループ共同創設者、BASF 元アジア統括部長

母子の健康月間

(Maternal and Child Health Month)

「母子の健康月間」は、4月を重点分野とし、5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減、妊婦の死亡率と罹患率の削減、より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、保健従事者を対象とした研修、保健ケアの提供、母子の健康に関連した仕事に従事することを目指す専門職業人のための奨学金の支援を強調するもので、2014年10月RI理事会で決定されました。

世界を変える行動人

母と子が強く健康に暮らせるように、ロータリーは医療の質の向上、衛生、教育支援、経済的機会の創出に力を入れています。



日本では、多くのクラブで会員数が減少し、会員年齢が高齢化しています。そんな中、米山学友を中心とする「東京米山友愛ロータリークラブ」が2010年に設立されました。

会員が多国籍ということに加え、会員の平均年齢が若いことがこのクラブの特徴です。公用語は日本語で、連絡や例会も日本語を使っています。

会員の出身国や関係国での海外プロジェクトのほか、東北被災地でのカレー炊き出し、ヨガ体験、高校生に会員出身国の文化を伝える活動、米山奨学生の文化理解ワークショップなど、国際色豊かな活動を展開して「元気なクラブづくり」を目指しています。

独自の活動で公共イメージアップ

クラブの特色を生かした奉仕活動は、口コミだけでなく、地元紙・メディアにも取り上げられ、公共イメージ向上につながっています。現在、国連ユニタールとの活動に参加しており、今年度(2017-18年度)初めてグローバル補助金を活用して、米国のクラブと一緒に広島原爆を生き延びた被爆樹木を世界に植樹するプロジェクトを実施しています。

会員ネットワークの活用

ロータリーファミリーや友人の紹介が多いのもこのクラブの特色です。会員の家族、友人、大学の後輩などを奉仕活動に誘って、ロータリーの活動理念とともに学び、体験し、それが入会につながっています。会員出身国の学友会活動の活性化も、奉仕活動の一環として取り組んでいます。

学友は入会前からロータリーの活動に参加した経験があり、特に米山奨学生は、「米山学友」としての誇りを胸に、民間大使として日本と母国との懸け橋として、さまざまな分野で活躍しています。

リーダーシップの育成

米山学友が日本社会で道を拓き、幹部職として活躍できるような人材として育つことができるよう、RYLAプログラムなどをヒントにした企画にも取り組んでいます。会員には独立して起業した人も多く、海外のビジネス事情について情報交換をするなど、職業奉仕にも役立っています。